

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 24 日

札幌市立 東園小学校

1 今年度の重点目標

「夢いっぱい 笑顔いっぱい 挨拶いっぱいの学校」

2 本年度の経営方針

すべての教育活動で「自分から 自分のために みんなのために」をキーワードに推進する
 ・「学ぶ力」自ら学び続けようとする意欲と学びの調整力を高める
 ・「豊かな心」: 自己有用感を高め、思いやりの心と規範意識を育てる
 ・「健やかな体」: 基本的な生活習慣の確立と体力・運動能力の向上を図る
 ・「情報を共有し協働する教職員」で学校改善を図る(組織的対応、安全教育の充実、異校種・地域との連携)

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	①心の豊かな子 ②仲良く助け合う子 ③よく考え行動する子 ④最後までがんばる子 ⑤進んで体をたええる子	○自分を信じ、自分で考えることは楽しいことだと感じることができたか ○成長し、認められ、学校は楽しいところだと感じることができたか	A	子どもが自分からみんなのために動けるよう、全職員で共通理解をし、知恵を出し合い、教育活動を工夫しながら、一丸となって取り組んでいきたい。特に、子どもたちの自治的な活動の充実を図りたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	「東園5本の指」を基本として、子どもたちが自発的・主体的に行動する力を付けるための取組を継続していただきたい。自分の力で自分の未来を切り拓くためには、自分から動いて学んだり身に付けたりする必要がある。そこを大切にしている東園小の取組を尊重する。					
人間尊重の教育	子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり	子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりに努めていたか	A	自分を承認する機会を増やし、一人一人が自分のよさや可能性に気付いていけるような教育活動に重点を置いて、全校で取り組んでいきたい。	A	A
「学ぶ力」の育成	主体的・対話的で深い学びが得られる授業の構築	自分の考えをもち、進んで解決できる力は育ったか	A	目指す資質能力を明確にし、どのような手立てで授業を行うのか、日々の学年研修、教科研修などの充実を図っていきたい。	A	A
「豊かな心」の育成	互いの気持ちや考えを認め合う姿勢から人間関係形成能力の向上	自分を大切に、相手を思いやり大切にすることができる教育活動を行っていたか	A	一人一人を大切に、他者から学び合う対話による学びを充実させることで、自己承認と相互承認の感度を上げていきたい。指導の系統性を考え、共通の指導をしていきたい。	A	A
「健やかな体」の育成	楽しく進んで運動やスポーツに親しみ、体力づくりと健康に対する知恵・実践力の習得	健康な体づくりのために、継続して安全に運動したり、学んだりする態度は育ったか	B	健やかな【心】と【体】を育むというねらいを明確にもち、そのために、運動に対する教材観や心のしなやかさを育む指導観を磨き、場の設定を工夫していきたい。	A	A
いじめ対策	的確な児童理解に基づく、安心して楽しく過ごせる環境づくり	子どもの気持ち・心を温かく受け止め、子ども理解に基づいた指導に努めることができたか	A	子どもの声をしっかりと聴き、受け止め、信頼関係を築き、相談しやすい雰囲気を作り、全校で子どもの声や表情・態度などにアンテナを高く張っていきたい。さらにいじめ防止対策委員会の機能を向上させ、情報の共有に努めたい。	A	A
一貫性・連続性のある教育(小中一貫した教育)	「小中一貫した教育」の推進(校種間連携)	相互理解を図り、9年間の連続性のある教育を目指すことができたか	A	幼稚園・保育園・中学校とも、情報共有に努め、計画的に取り組んでいきたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	子どもが自ら目標を設定し、その到達度を評価し調整する能力を育む取組が進められている。いろいろな分野で、自己承認の機会を設け、学習へのモチベーションを高めていただきたい。自己肯定感が低くなっている現代、自分や他者を互いに認め、尊重し合うことはとても重要で、教育活動の随所に見られる東園小の取組を継続してほしい。					
学校独自に設定する分野	業務改善・働き方改革		A	教員が子どもに向かう時間の充実が、子どもの豊かな成長につながる。工夫できる部分を洗い出し、できるところから取り組んでいきたい。	A	A
	学びの基盤となる【読書】		B	読書は子どもの生涯にわたる学習活動の基礎となるものであり、言語能力・表現力・創造力を育む重要なものであるため、全校で取り組んでいきたい。	A	A
	家庭や地域とともに進める学校づくり		A	時間割とその週の子どものよさや成長、頑張りやHPに挙げ、保護者に学校教育活動を分かりやすく伝えることを継続していきたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	日常生活の中で、本を読む機会が少なくなっているが、今後も読書に親しむための環境づくりをお願いしたい。また、ネットやゲーム依存にならないように指導するとともに、AIの活用についても配慮が必要だと思う。情報収集の仕方や他者との交流の仕方等、いろいろな方法があることを示し、偏らず広く使える技能を身に付けさせてほしい。					